

創部120周年の運動部について

本校創立のその年のうちに「校友会」が発足し、その組織の中に「野球」「庭球」「撃剣」「端艇」の4つの運動部が位置づけられました。春秋2回の校内大会を主催するのも活動の一環であったとのこと。「撃剣」は剣道部の前身とされますので、現在の「硬式野球」「ソフトテニス」「剣道」「端艇」の4つが、今年創部120周年を迎えたこととなります。

【野球部】

過去4回の甲子園出場を果たしている硬式野球部ですが、創設当初の活動はあまり活発でなかったらしく、「白玲瓏」第三号に「当校開始以来、他の運動即ちテニスやボートは県内にも朝日の上が如き光輝を放ち、大なる芳声を博して居る、野球と言へば実に残念な程振はないけれど、二、三年前は少しく盛んで兎に角校内で競争位は行はれたが、それ以来本年の春に到る迄はミットを手にするものさへ見へず、野球は殆んど衰亡に帰して居った」と記されています。この状況を打開するために、明治41年に生徒9名により「野球義勇団」が結成され、少数精鋭ながら練習を軌道にのせていきます。そこに秋田中学（現：秋田高校）から「挑戦状」が届き、初の対外試合が9月に本校グラウンドで行われました。スコア等は残っていませんが、「口にすることさえ恥しいほどの大敗を喫したものである」と「八十年史」には記されています。しかしこの敗戦が野球部員の心に火をつけ、翌年の明治42年には「白玲瓏」第四号に「去秋川辺倶楽部（※秋田中学）に敗れて興奮躍起、やがては県下に覇たらんと我野球部は、今春白雪尚頻紛たる頃よりキャッチボールをおこたらず、三月よりのグラウンドは妙なる勇士の花ひらき、ノックの響空にみつ、くもれる日にも風の日も鍛錬終始たゆむなく（後略）」と記されるほどになります。本校硬式野球部の本格的な活動はここから始まったと言ってもよいでしょう。

【庭球部】

開校当初の本校における花形スポーツはテニスだったようです。「八十年史」には「元来が舶来のスポーツであって見た目がよく、校地内ですぐにできる手軽さもあって、かなり盛んに行われたようである。」とあり、明治40年の校内庭球大会の写真が掲載されています。当時のテニス部の様子は「白玲瓏」第三号で次のように紹介されています。

「年一年と盛んになり行く当部は、本年も多くの新入会員を得たり。（中略）四月上旬練習を開始してより日々コートに人影の絶へたる事なく、鉄をも溶かすが如き炎暑の折にも部員は熱心にラケットを手にしてコートに立ち、電光石火の如き勢にて飛び来る球を打ち返し打ち飛ばしては腕を鍛へ、（後略）」明治期の対外試合の記録はありませんが、明治42年に山形に10名で遠征した際の様子が「白玲瓏」第四号に掲載されています。

- 7月20日 午前3時：本荘発 - (徒歩) → 午後2時：湯ノ田温泉着
21日 午前7時：湯ノ田温泉発 - (徒歩) → 正午：酒田着
※21日と22日は市内の学校のコート借りて練習
23日 午前8時：酒田発 - (馬車) → 午後1時：鶴岡着
※到着後、荘内（鶴岡）中学校で相手校の選手と一緒に練習

24日 庄内（鶴岡）中学校と練習試合

25日 午前8時：鶴岡発 - (徒歩?) → 午前10時：庄内農学校着
※午後3時から庄内農学校と練習試合

当時は羽越本線がまだありませんでした。今ではとても考えられない日程ですが、これを見るだけでも当時の生徒達の熱気が伝わってきます。

【撃剣部】

「八十年史」には、「春秋二回の大会を開いて、生徒同士の対抗試合、警察及び郡内の錬達の士を招いての模範試合ないし生徒との交流試合を催すのが主な行事であったようである。」とあります。正式な対抗試合への参加は、明治42年の県立学校武術大会が初めてだったと思われます。なお、この大会では剣道・柔道の2競技が行われ、同年設立したばかりの本校柔道部も参加しています。

10月17日 午前6時：本庄発 - (馬車) → 午後1時半：秋田着

18日 大会 ※大会終了後、午後6時：秋田発 - (馬車?) →

19日 午前2時半：本庄着

庭球部と同様、羽越本線がまだない時代なので、他地区で開催される大会へ参加すること自体が大変なことだったと思います。「八十年史」には「こんにちでは想像もできぬ長旅にも疲れをみせぬ、当時の中学生たちの意気まさに軒昂である」と記されています。

【端艇部】

本校の「校技」と位置づけられているボートですが、本校端艇部は当時の県知事であった武田千代三郎氏の提唱により設立されました。武田知事自身が東京大学在学中にボート競技で活躍した方で、本県知事在任中も秋田中学端艇部のコーチをみずから買って出ていたとのこと。当時の校舎から歩いて10分程度のところに水量豊かで流れが緩やかな子吉川がある、という地理的条件がボートに適しているとの判断の上での提唱だったようです。しかし、当時はボートについて詳しい人は少なく、本校端艇部の活動は手探り状態で始まったと思われます。明治36年の秋にようやく2艘の新艇「鳥海」「象潟」が海路新潟から運ばれてきましたが、まず現在の本庄公園前の堀に浮かべて漕法の研究が重ねられました。これらの新艇が子吉川に浮かんだのは、明治37年になってからのことです。本校よりも先に端艇部ができたのは、秋田中学と秋田師範でした。生まれたばかりの本校端艇部は、この2校との対抗試合を通じて徐々に力を付けていくことになります。

「八十年史」「百年史」では、校内ボート大会が初めて開催されたのは、明治37年6月と推測しています。出漕クルーの数は年々増え、それに比例して町の人々のボートに対する興味と関心も高まり、大会当日はゴール地点の由利橋の上に観客が鈴なりであったといえます。ボートが本庄の「風物詩」と呼ばれるに到るには、本校の校内ボート大会も大きな役割を果たしていたと言えます。なお、本校が現在の陳場岱に移転した昭和63年に、ボート大会は形を変えて1年生全員を対象としたボート教室になり、現在に至ります。

(文責：校長 熊澤耕生)